

雨も吹き飛ばした 熱いビートと踊りの輪 踊り夜市

10月4日(土)、日が落ち始める頃、ココティすぎとの芝生広場に熱気が満ちていくなか、生歌と生演奏で楽しむ現代風盆踊り「踊り夜市」が幕を開けました。

練り歩き楽団・YATTE&MIROTTTS(ヤッテミロッツ)の演奏による「鎌田行進曲」「オブラディ・オブラダ」、杉戸在住の民謡アーティスト・宇宙軒明星さんが歌う「杉戸音頭」が会場に響き渡ります。その演奏に合わせて、提灯棚を中心に輪になって踊る皆さん。そこから生まれた場の空気と高まる熱が溶け合い、夜の広場はまるで太陽のように輝いていました。そして、「ダンシング・ヒーロー」が流れると、会場の盛り上がりは最高潮に。途中、雨が降り出し一時は中止も心配されましたが、会場の勢いは冷めることなく、無事に終幕。

杉戸の人の熱さ、楽しむ気持ち、笑顔が輪になった一夜でした。



コミュニティセンターからの お知らせ

★2026年度前期ココティスクール 講座講師募集

2026年度前期のココティスクール町民企画講座の講師募集を行います。詳しくは、杉戸町コミュニティセンター窓口またはすぎとまち情報サイトにて「ココティスクール講座講師募集要項」をご覧ください。

- 講座開催期間
2026年4月1日(水)～2026年9月30日(水)
- 募集期間
2025年11月1日(土)～2025年11月30日(日)

★休館日のお知らせ

3ヶ月に一度の定期清掃のため下記の日程で全館休館させていただきます。ご迷惑をおかけいたしますがご理解の程よろしくお願いたします。

- 休館日：12月7日(日) 終日

※ココティすぎと館内全ての施設に終日立入できません。
※図書は玄関前返却ポストへ返却をお願いします。

(アイコン/サイト名：かんたん似顔絵くん URL:https://charat.me/portrait/)

コミセンからこんにちは ～スタッフコメント～



今月の担当者
松田

スタッフの松田です。
コミュニティセンターでは楽しい企画やイベントが盛りだくさんありますので、ぜひ遊びに来てください。

杉戸町コミュニティセンター

〒345-0036
埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸3丁目9番10号
TEL: 0480-53-7400
Eメール: sugito.community@machikatsu.co.jp
開館時間：午前9時～午後9時30分
休館日：年末年始(12月29日～翌1月3日)

ホームページや各種SNSもぜひご覧ください！



Instagram



Facebook



ホームページ



ココスク講座
予約サイト

知ってほしい！

“ありがとう” でつなげるフードパントリー —居場所づくり応援隊が広げる身近な支え合い—



すぎとNewsとは？

すぎとニュースとは、杉戸町コミュニティセンターの情報誌で毎月1回発行します。内容は、センターで活動している団体や、まちのキーパーソンの紹介、センターや町が主催のイベント情報などを予定しております。PRしたいことなどございましたらぜひ情報をお寄せください！

知ってほしい！ “ありがとう”でつなげるフードパントリー

—すぎと居場所づくり応援隊が広げる身近な支え合い—

食の支援で地域をつなぐ「フードパントリー」。
今回の「すぎと NEWS」では、杉戸町でもこの活動に取り組んでいる団体「すぎと居場所づくり応援隊」の代表・寺田さんにお話を伺いました。フードパントリーのしくみや活動を通して、町の皆さんも参加できる食の支援を紹介します。

フードパントリーとは

経済的に困っている家庭や個人に、無料で食品を配布する支援活動のことをいいます。主に NPO やボランティア団体、自治体などが運営し、寄付で集まった食品を必要とする人に届けることで、食の支援を行っています。



フードパントリーには、フードバンクや地元の農家、地域の方々など、様々なルートを通じて食品が集まってきます。すぎと居場所づくり応援隊では、それらを受け取り、仕分けをして、必要とするひとり親家庭に配布しています。

フードドライブinココティすぎとのお知らせ

杉戸町コミュニティセンターで
奇数月第1木曜日から第3木曜日まで実施。
※すぎとピアでは常時受け付けています。

特に必要な食品例

お米、乾麺などの主食になるもの
/缶詰/インスタント食品・レトルト食品/調味料/お菓子/飲料
※文房具・生活用品・衛生用品などの未使用品も対象です。



★お受けできない食品

生鮮食品/冷凍・冷蔵食品/アルコール類(みりん、料理酒を除く)

★お願い

賞味期限が1か月以上(奇数月の場合)
残っている未開封のものをお願いします。
※偶数月の場合は2ヶ月以上。

「誰かがやらなければ」から始まった支援の輪

～すぎと居場所づくり応援隊寺田さんの想い～

町外の仲間が始めたフードパントリーの話をきっかけに、
「自分の町でも何かできるのでは」と感じた寺田さん。
どんな思いでこの取り組みに向き合っているのか、お話を伺いました。



時折笑顔を見せながら、寺田さんはフードパントリーや支え合いへの思いを語ってくれました。

フードパントリーを始めたのは、町外の地域活動に関わっている仲間の話を聞いたのがきっかけです。その中で、フードパントリーの話を聞いて、「それなら杉戸町でもできるんじゃないか」と感じたんです。そこで地元の仲間にも声をかけ、10人で「すぎと居場所づくり応援隊」を立ち上げました。最初は、県やフードバンク、町担当課、町社協に後援依頼をするとともに、他のフードパントリー先進地域での見学や実習を重ねました。また、研修会も開催し、フードパントリーへの理解と協力を求める中で、少しずつ輪が広がっていき、2020年1月ようやく初めての配布ができたんです。今では41回行って、延べ約2,900世帯に届けました。

小さなつながりが、まちを支える力に

私たち、すぎと居場所づくり応援隊の活動は、多くの人とのつながりに支えられてきました。例えばお米だけでもトータル 1.6 トンの量を寄贈していただいています。これは本当にすごいことですし、こうした支えがあって活動を続けられています。私たちは、フードパントリーの利用者は、食品ロス低減の仲間と思っています。配布のたびに、その仲間である利用者の方から届いた感想やお礼の言葉を寄贈者にお伝えするようにしていて、そうしたやりとりの中で、感謝の気持ちが人から人へと広がっていくのを感じます。こうした「ありがとう」の繋がりがなければ、この活動は続けていくことが難しいと思います。



「すぎと居場所づくり応援隊」のみなさん。食の支援を通して、町のあたたかな繋がりを支えている方々です。

